

今冬の電力需給状況について (1月31日までの状況)

2015年2月9日
北海道電力株式会社

1. 電力需要の状況

(1) 今冬の節電のお願い

・今冬は、以下の期間・時間帯において、無理のない範囲での節電へのご協力をお願いしております。

期 間	時間帯
12月1日（月）から3月31日（火）の平日 （12月29日から31日および1月2日を除く）	8時から21時

12月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

1月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

2月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

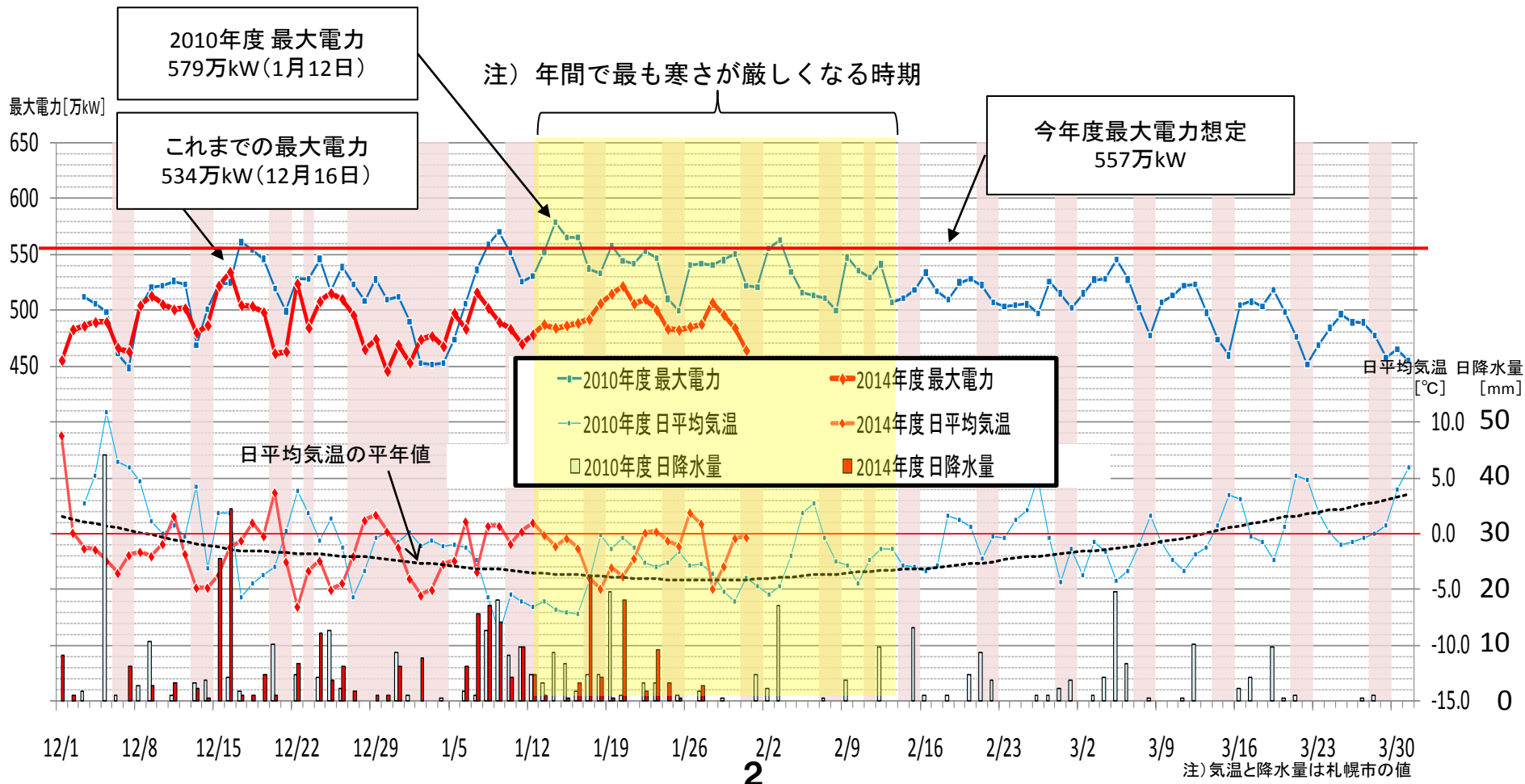
節電にご協力いただきたい日

12/1～3/31※の平日における8:00～21:00以外の時間帯についても、可能な範囲での節電をお願いいたします。

※12/29～31および1/2を除く。

(2) 今冬の電力需要実績

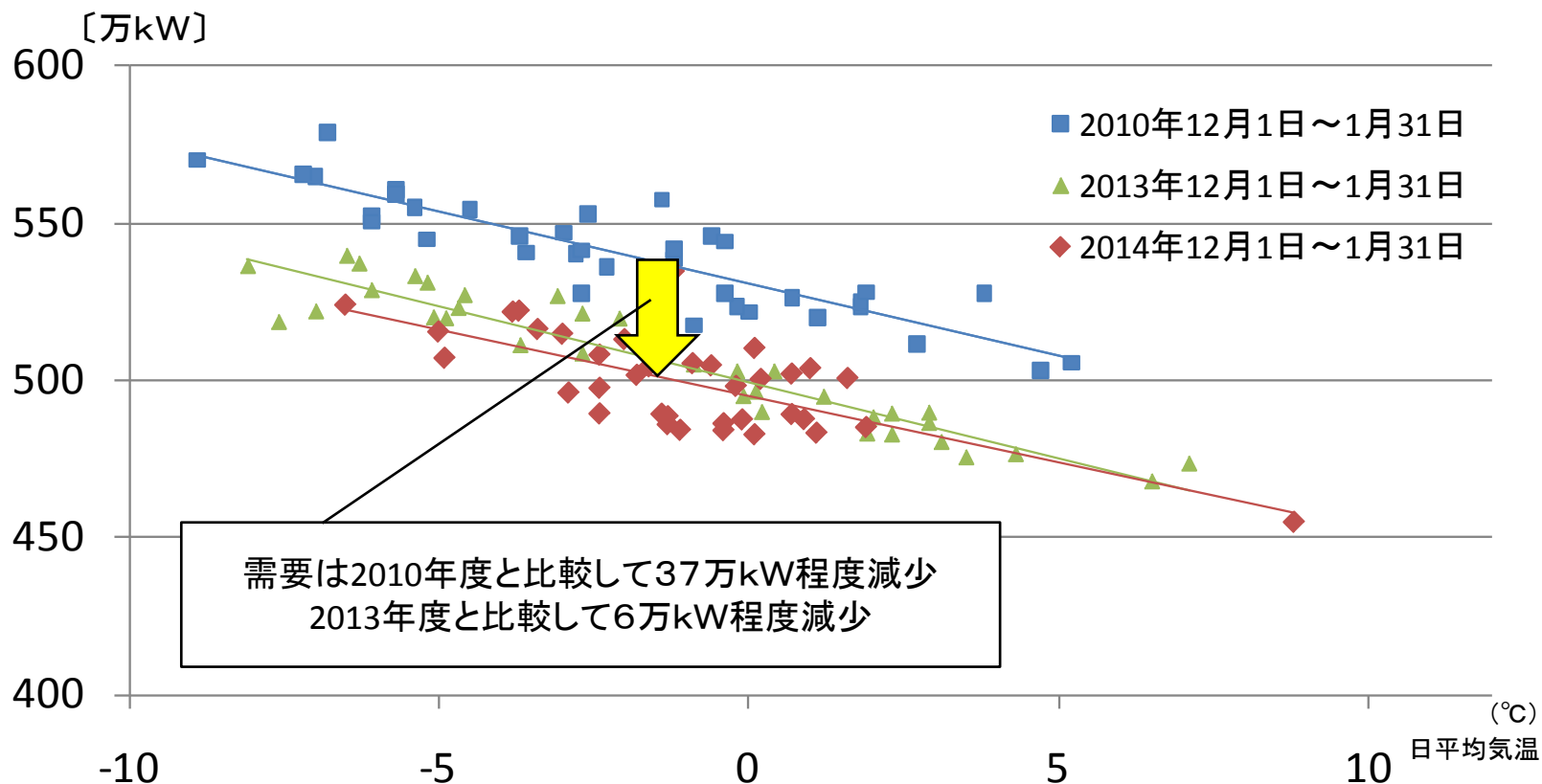
- ・ 期間中の気温は、平年と比較すると12月は低く、1月はかなり高く推移しました。
- ・ 今冬のこれまでの最大電力は、557万kWの想定に対し、534万kW (12月16日16~17時) となっております。



(3) 最大電力の過去実績との比較

- ・ 12～1月の平日における日々の最大電力は、気温の影響を考慮した場合、景気による影響等は含まれるものの、2010年度と比較すると37万kW程度*（7%程度）、2013年度と比較すると6万kW程度（1%程度）減少しています。

※2010年度における、平日の日平均気温の平均値において比較した減少量

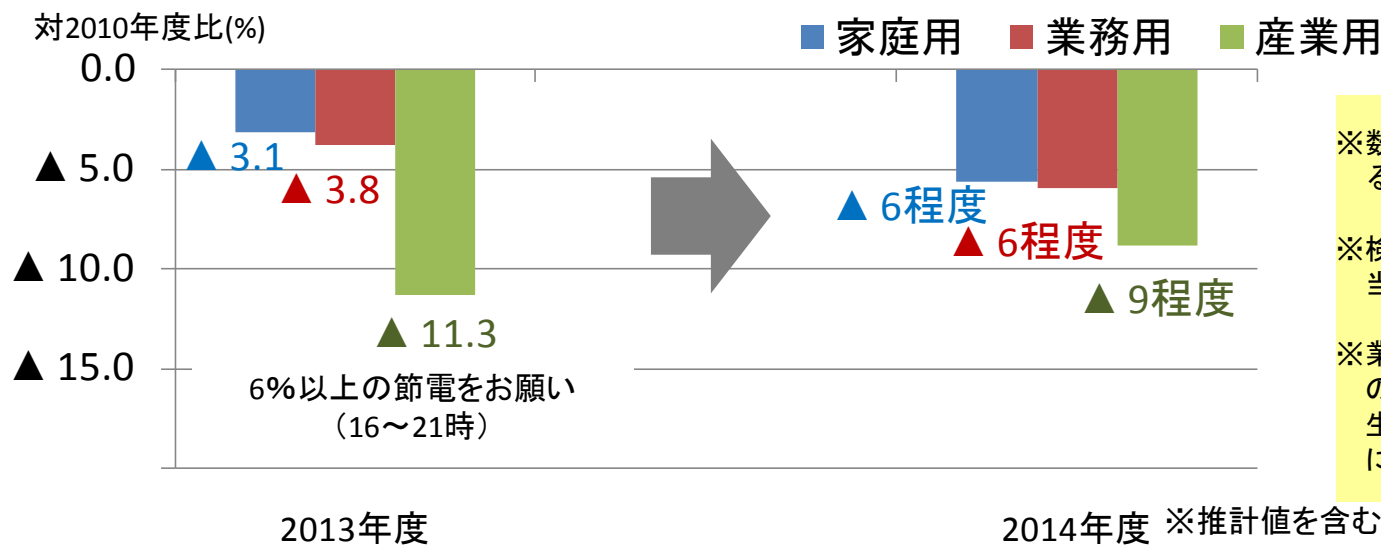


注) 当社では、冬季の電力需要に与える気象影響の指標として、気温に加え雪の影響（降水量）を採用しているが、降水量の最大電力への影響は冬期間を通した分析としており、現段階では気温影響のみで比較した。

(4) 販売電力量の推移

- 12～1月分の販売電力量^{*}は、各用途ともに対2010年度比較で減少しており、2013年度との比較においても、引き続き節電にご協力いただいている状況です。
(※1月分は推計値)
- 用途別では、家庭用や業務用においては、照明の間引きや暖房の温度調整のほか、省エネ型機器への取替えなどにより、更なるご協力をいただきました。
- また、産業用においても自家発電の焚き増しや操業の調整などにより、ご協力をいただきました。

2010年度との電力量比較 (12～1月分合計)



※数値 (%) は、各用途における2010年度に対する減少率

※検針期間、気温の影響を除く当社試算値

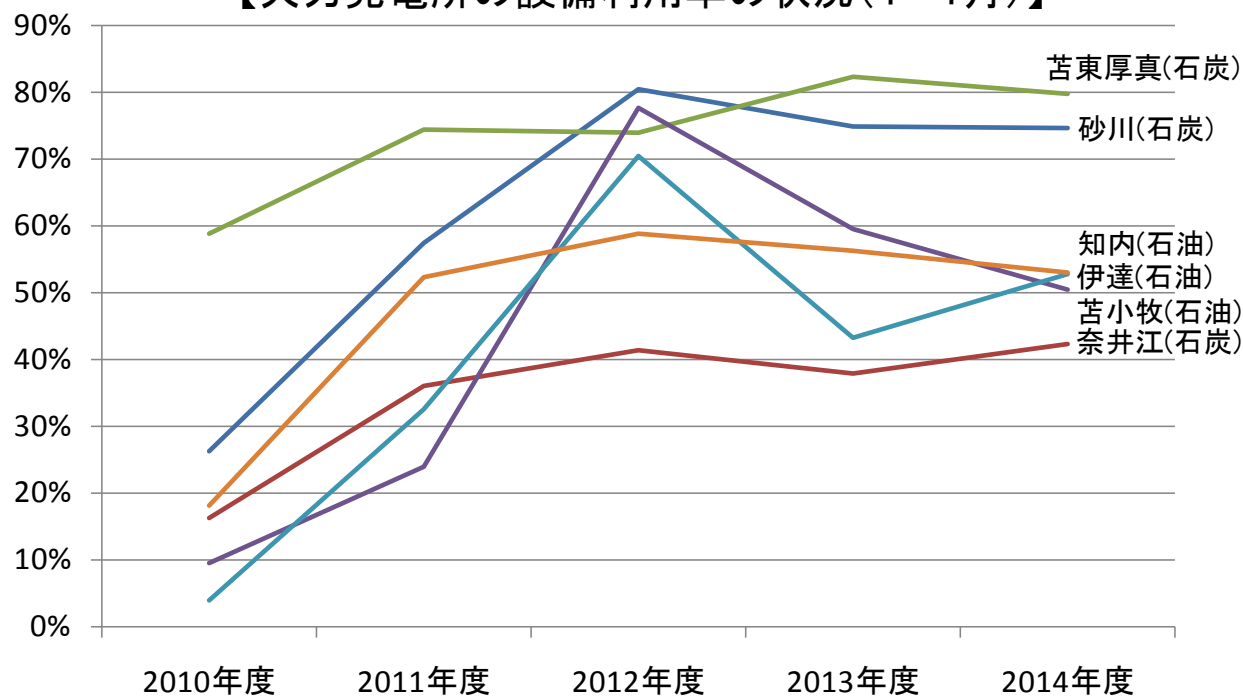
※業務用・産業用は、節電効果のほか、自家発電の焚き増し、生産や設備稼働の動向、景気による影響などを含む

2. 発電設備の状況

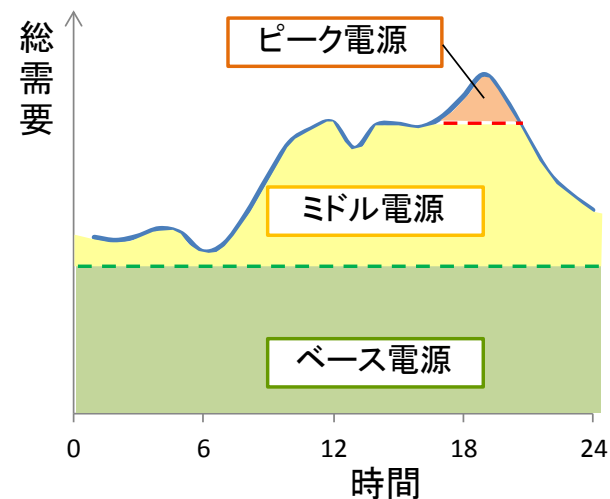
(1) 火力発電設備の利用率の推移

・2011年度以降、泊発電所が順次停止し、ピーク電源であった石油火力発電所を、ベース電源あるいはミドル電源として運用しております。このため、火力発電所の設備利用率は2010年度と比較して大幅に上昇し、現在も高止まりの状況が継続しております。

【火力発電所の設備利用率の状況(4~1月)】



【電源構成イメージ図】



(2) 火力発電設備の補修作業実績

- 今冬における火力発電設備の計画外停止を抑制する目的で、秋季に可能な限りの補修作業を実施しました。特に、当社最大機である苫東厚真4号機(定格出力70万kW)は、10月4日から21日にボイラー管の洗浄・点検作業を実施し、冬季の安定供給に万全を期しました。
- 12月以降については、これまで同様、設備パトロールや運転監視の強化による設備異常の早期発見に努めたことにより、計画外停止個々の規模は軽微なものにとどまっております。このため、ほとんどの補修作業を電力需要の減少する土曜・日曜・祝日に完了できました。

【2014年秋季以降の主な火力発電設備の補修作業実績】

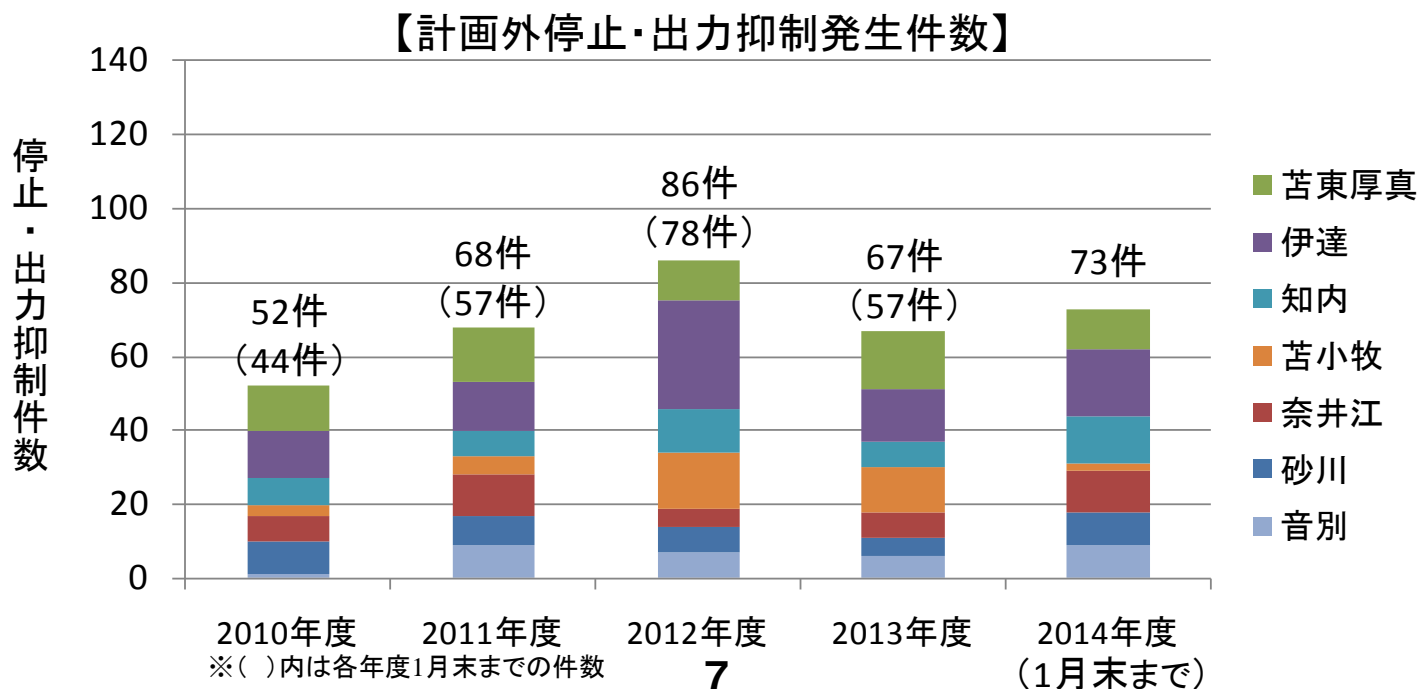
発電所	ユニット	10月	11月	12月	1月
奈井江	1号機(17.5)	7 ¹⁰ 7 ₁₄			17 ¹⁸
	2号機(17.5)		31		
砂川	3号機(12.5)		2 ³		
	4号機(12.5)	3			
苫東厚真	1号機(35)		22 ²³	5 ⁸	
	2号機(60)				
	4号機(70)	4 ²¹ 25 ₂₈			
苫小牧	1号機(25)			30 ⁵	
伊達	1号機(35)	3 ¹¹ 5 ₁₂			
	2号機(35)	4 ¹⁹ 5 ₂₃			
知内	1号機(35)	22 ²³			
	2号機(35)		14 ¹⁷	13 ¹⁴ 26 ₂₉	

注1: カッコ内の数値は定格出力(単位:万kW)を示す。

注2: 表中、網掛けは土日祝日および年末年始期間を示す。

(3) 火力発電設備の計画外停止・出力抑制実績

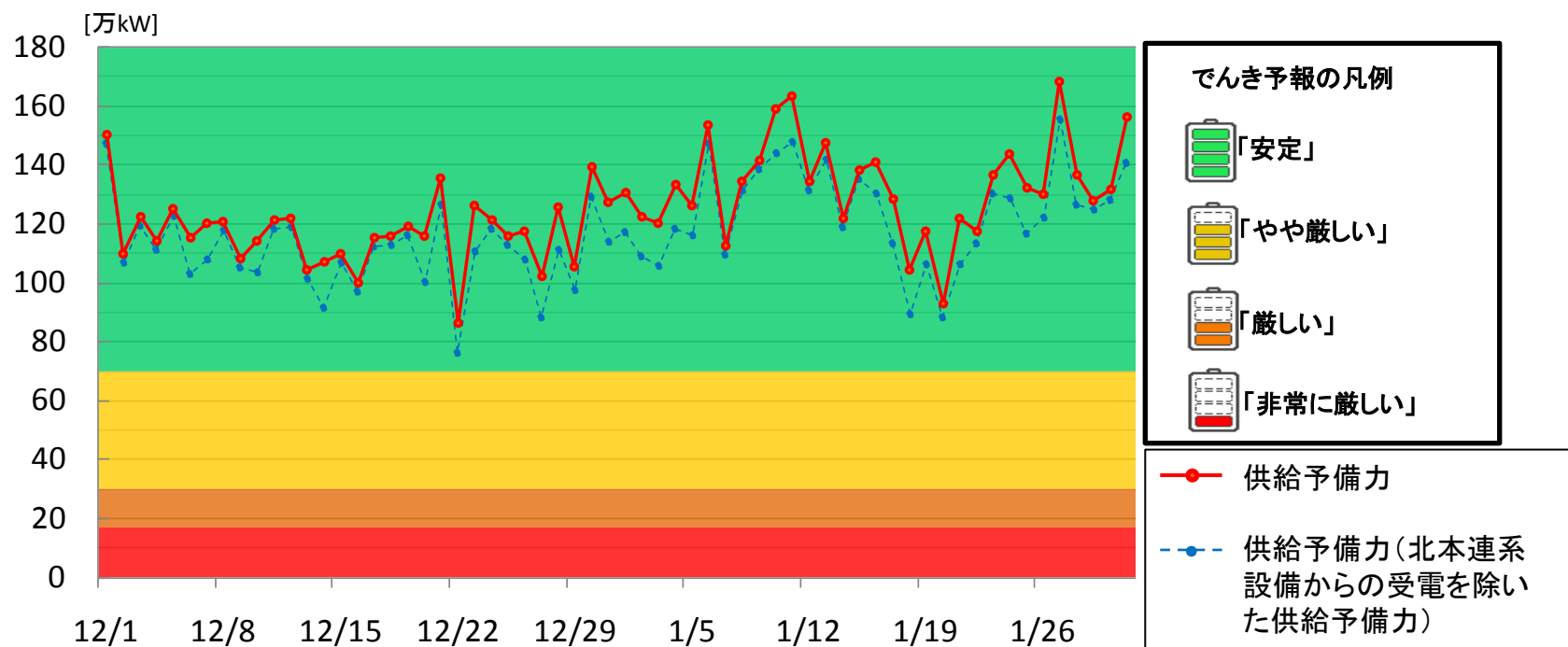
- 火力発電設備の1月31日までの計画外停止および出力抑制件数(緊急設置電源を除く)は**73件**でした。計画外停止を抑制する目的で、きめ細やかな点検・補修に努めているものの、**2013年度同時期の57件と比較して増加しています**。
- 震災前の2010年度と比較すると、利用率増加・定期点検繰り延べの影響による不具合(復水器海水漏洩、電気式集じん装置不具合等)や点検・清掃作業等(煙突やボイラーの内部洗浄作業等)により、計画外停止・出力抑制件数が増加しています。
- 今後も火力発電設備の高稼働運転が想定されるため、計画外停止・出力抑制や、複数台の同時停止等による供給力の減少の可能性があります。**



3. 電力需給の状況

(1) 供給予備力の推移

- 供給予備力は、電力需要の減少や、京極発電所1号機(定格出力20万kW)の運用開始による供給力の増加などにより、1月末までの間、70万kW以上を維持しております。
- これまでのところ、苫東厚真4号機(定格出力70万kW)などの大規模な火力発電設備に計画外停止などのトラブルは発生していません。しかし、計画外停止および出力抑制件数は2013年度と比較して増加しており、発電設備の計画外停止等が重なった場合には、今後も需給ひっ迫のおそれがあります。



4. まとめ

- お客さまにおかれましては、日頃より節電にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
- これまでの電力需要実績は、お客さまの節電へのご協力などにより、2010年度と比較して7%程度減少しております。
- また、供給力面では、当社初の純揚水式発電所であります京極発電所1号機(定格出力20万kW)の運用を開始したこと、冬季における火力発電設備の計画外停止を抑制するため、秋季に可能な限り補修作業を実施したこと、および設備パトロールや運転監視の強化による設備異常の早期発見に努め、平日補修作業を回避したことなどにより、これまでのところ安定供給を維持しております。
- これまでのところ大規模な火力発電設備に計画外停止などのトラブルは発生しておりませんが、計画外停止および出力抑制件数は昨年度と比較して増加(1月末時点で昨年度57件、今年度73件)していることから、寒さが続く中で、発電設備の計画外停止等が重なった場合には、厳しい需給状況となります。
- 当社は、供給力の確保に向けて、今後も設備保全やパトロール強化に努めてまいります。お客さまには、引き続き無理のない範囲で、これまで取り組んでいただいている節電へのご協力をお願いいたします。